

令和四年度 学校評価 勇志国際高等学校

勇志の心	国を愛し 郷土を愛し 人を愛する
教育方針	親孝行する青少年たれ 志ある人間たれ 誇りある日本人たれ 役に立つ国民たれ 尊敬される国際人たれ
指導方針	生徒の長所を認め長所を伸ばすことを、生徒指導に当たっての指針とする。短所を指摘し矯正する方法は採用しない。

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	具体的方策	達成状況	評価	次年度への改善点
学習指導				
1 道徳教育の確立	①科目として教育課程に入れている。「高校生のための道徳」を道徳教科書として使用している。	①開校以来、道徳の授業を行っている。充実した道徳教育ができています。	A	日本人としての誇りを持つ生徒を育成するために、日本の正しい歴史・道徳教育を今後も継続する。
2 スクーリングの充実	②コロナウィルスの影響で変更をやるを得ない点も多くあったが、緩和に従い、各学習センターの登校型で実施に加え、1月より本校での宿泊型のスクーリングを実施できるようになった。	②登校型スクーリングについては、本校2回、各学習センターにて6回実施。通学生については3回に分散して実施した。本校の宿泊型スクーリングは10回を予定していたが、2回のみの実施となった。	A	コロナウィルスの影響を受け、数年、各所でのスクーリング実施など柔軟な対応を行ってきた。今後の状況も注視し、リスク管理を意識して体制を整える。

3 ネット活用の充実	<p>③ネットライブ授業に加え、「なりたい自分になる」ためのG r o w t h P r o g r a mオンライン授業を開始。個別最適化につながる授業を展開している。</p> <p>また、生徒・保護者とのコミュニケーションをとるためのオンラインツールを導入。</p>	<p>③令和四年度ネット授業の延べ参加人数は6, 0 0 0名である。</p> <p>G r o w t h P r o g r a mの延べ参加人数は1, 2 4 9名である。</p> <p>ネットで生徒・保護者面談、ガイダンス、ホームルームも実施した。</p>	B	<p>G r o w t h P r o g r a mのカリキュラムも充実し、受講者増につながっている。「なりたい自分が見つかる学校」としてより多くの生徒がオンラインでの授業を受けるよう体制を整える。</p>
4 各種検定受験指導	<p>④科目として漢字検定、英語検定、パソコン検定を教育課程に入れている。</p> <p>各種検定合格を目標設定し、受験を勧める。</p>	<p>④令和四年度の各種検定は受験者3 9 5名、合格者2 5 4名である。</p> <p>(前年度は受験者3 6 0名、合格者2 4 5名)</p> <p>上位級の合格：</p> <p>英語検定2級、漢字検定2級、ワープロ検定1級、準1級、情報処理技能検定1級、2級、数理技能検定2級、パソコンスピード検定1級、2級</p>	B	<p>昨年度と比較し、検定の受験者・合格者ともに増加した。</p> <p>今後も多くの生徒が受験・合格する仕組みを整えていく。</p>
5 弁論大会	<p>⑤平成二十九年度から他学習センターも参加し全国弁論大会として開催している。令和四年度は第1 0回弁論大会を開催した。</p>	<p>⑤熊本、福岡、千葉、宮崎の4ヶ所をネット中継し、リアルタイムの弁論大会を実施した。本選は7人の弁士が発表した。3 6 6名の生徒が傍聴した。</p>	A	<p>文化祭の中で、「弁論大会」を実施。多くの生徒が傍聴した。弁士に限らず、傍聴した生徒にとっても成長の場となっている。</p>

キャリア教育				
1 進路指導の充実	① 進路指導部を中心に、学年に応じた進路ガイダンス等、継続的な進路指導を行う。また、「ネット予備校」で、個別カリキュラム制の受験対策を行っている。	① 令和四年度の進学希望者の決定率は85%、就職希望者の決定率は89%、進路決定率は87%である。	A	「ネット予備校」の学習内容、フォロー体制が整い、成果が出ている。国公立大学、難関私立大学の現役合格実績を出すため、更なる充実を図る。
2 職業観の育成	② キャリア教育としてオンライン講話を実施。多方面で活躍する方をお招きし、講話を実施。	② 講話については、11名の方をお招きした。生徒の職業観の育成に大きくつながっている。	A	在籍中の活動をとおり、正しい職業観を持つ生徒を育てる。職業体験参加等にも力を入れていく。
生徒指導				
1 いじめ防止	① 【いじめ対応に関する基本原則】 ・いじめを絶対許さない学校 ・教職員はいじめを未然に防ぐ深い洞察力と継続した行動力を持つ ・生徒はいじめを見たら止める勇気を持つ	① いじめがあった場合、全教職員で情報を共有し、一丸となって継続した指導を行う。 いじめの実態把握と防止のためにアンケートを実施。 ネットいじめに注意していく。	A	いじめに対しては全教職員が毅然と対応し、いじめを許さない校風を構築する。 情報共有システムの一層の充実を図る。
2 SNS指導	② ソーシャルメディアガイドラインに沿って、定期的に注意を呼びかける。 業者と提携し、検索・監視を実施。 警察によるリテラシー講座を実施。	② 業者からの報告等で、不適切な書き込みが発覚した場合、削除及び今後への指導を行う。	A	不適切な書き込み等から生徒を守るために、次年度も業者と提携する。 警察によるネットリテラシー講座を実施する。

3親孝行の奨励	③「親孝行する青少年たれ」を实践するため、平成二十六年から「親孝行コンクール」を实施している。	③令和四年度は「第8回親孝行・絆作文コンクール」を实施し、1,007名の応募があった。(令和三年度応募数916名)	A	次年度は親孝行コンクール950名以上の応募をめざす。 親孝行する生徒を育成する。
安全管理	登下校時の交通事故注意喚起を行っている。 また、コロナウィルス対策(校内でのクラスター阻止)などを实施している。	大きな事故等なく、運営することができている。 作成したコロナウィルス感染者発生時のマニュアルをもとに、大きな混乱なく対応ができた。	A	事故・災害・感染症等に対し、平常時よりリスク管理を徹底する。
情報提供	オンライン上で確認できる学校通信「ポプラ通信」を発行。 HP等でも随時、情報提供を行っている。	学校通信については、毎月発行。内外に向けた情報提供ができている。学校、生徒、保護者間におけるコミュニケーションツール「Slack」「Gmail」「LINE」を利用することで円滑な情報共有につながっている。	A	次年度も引き続き各種情報提供をしていく。
地域との連携	「絆の日」では教職員・生徒と地域の皆様と共に清掃活動を行っている。 地域の各種行事へ参加している。	東日本大震災以降、毎月11日を中心に「絆の日」として清掃活動を行っている。既に126回の活動を終えた。	A	今まで以上に地域の皆様に対する感謝の念を忘れず、取り組んでいく。

<p>教職員研修</p>	<p>学内においては、校長による勉強会を毎月実施している。宮崎にて研修旅行を実施した。</p> <p>【勇志国際高校の教職員の心得】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育者は、聖職者である。 2 教育者は、自らを鍛錬し、生徒に対しては長所を伸ばす指導法を基本とする。 3 教育者は、自己責任を行動原理とする。 4 教育者は、学校の健全な発展に努める。 5 教育者は、教育は国家百年の大計と心得る。 6 教育者は、生徒の教育を本位として行動する。 7 教育者は、教育を通して利他の精神に基づく文化を創造する。 8 教育者は、国を愛し、郷土を愛し、人を愛する。 9 教育者は、正しい歴史観と国家観が教育の基本と認識する。 10 教育者は、問題行動に対しては、毅然とした態度で適切な指導を行う。 	<p>教職員の意識が確実に向上している。勉強会はネット会議システムを利用している。</p> <p>全教職員が心得を正しく理解し、実践できている。</p> <p>外部実施の研修等にも積極的に参加している。</p>	<p>A</p>	<p>次年度も同様に勉強会を実施する。</p> <p>全教職員が使命と責任を果たせるように努力を続ける。</p>
--------------	--	---	----------	--